



健やか豆知識 第24回

Q. 日本人の子どもが熱性けいれんを起こす割合は？(参考:欧米での発生率 2~5%)

- I 0.1~1%
- II 7~11%
- III 15~20%



タカちゃんママ

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —  
高田製薬株式会社

熱性けいれんは、慌てず落ち着いて対応しましょう

熱性けいれんは、生後6カ月ぐらいから5歳ぐらいの子どもにみられる、発熱時に起こるけいれん発作(ひきつけ)です。日本人は海外の人に比べ熱性けいれんを起こしやすいといわれており、7~11%の子どもが経験します。とくに1歳過ぎの子どもによくみられますが、成長とともに起こらなくなります。

熱性けいれんは、38℃以上の発熱時に出現し、発熱から24時間以内に生じることが多く、突然、白目をむく、全身を突っ張る、手足をガクガクと震わせるなどの症状がみられます。けいれんを起こした時は慌てず落ち着いて、平らな場所に横向きに寝かせてあげましょう(嘔吐による誤嚥を防ぐため)。昔は舌を噛んでしまうからと、口にタオルを入れたり割り箸を噛ませたりすることがありましたが、このような対応は呼吸をしづらくさせてしまうので、口の中にも物を入れしないでください。窮屈な服装の場合はボタンやベルトを緩めて呼吸を楽にしましょう。そのほか、その後の診察にそなえて、けいれんの様子(左右の動きの違い)や持続時間を確認しておきましょう。可能であれば動画で撮影しておくことで診察時に役立ちます。熱性けいれん後は、しばらく寝てしまう子どももいますが、目が覚めた後に意識がしっかりしているかを確認し、症状が起こった時の体温を計っておきましょう。

ほとんどは2~3分でおさまりますが、5分経ってもおさまる様子がない場合は、インフルエンザ脳症や髄膜炎などの病気も疑われるため、直ちに救急車を呼んでください。

初めて子どもが熱性けいれんを起こしたら、とても不安なものですよね。ほかの病気が隠れていないかを確認するためにも、一度、医療機関を受診しましょう。

監修 後藤 知英 神奈川県立こども医療センター 神経内科部長

さらに詳しい情報は ホームページで!

< 正解 II 7~11% >

クイズの解説

日本人の子どもが熱性けいれんを起こす割合は欧米に比べ高く、比較的よくみられます。

日本小児神経学会の『熱性けいれん診療ガイドライン2015』には、熱性けいれんの有病率は「諸外国では概ね2~5%と報告されている。わが国では7~11%と諸外国より高い有病率の報告が多い。」と記載されています。生後6か月から6歳ぐらいまでのお子さんにみられるけいれんです。初めて熱性けいれんを起こしたお子さんが、再び熱性けいれんを起こすのはそのうちの約30%で、そのほかのお子さんでは再発はありません。お子さんが初めて熱性けいれんを起こすと、保護者の方はあわてってしまうのも無理ありませんが、できるだけ落ち着いて、下記(①~⑧)内容を実践してみましょう。

熱性けいれんは家の中で起こることが多いですが、抱っこしているときに起こったら、思わぬ動きでお子さんを落とってしまう危険があるので、まずは①安全な場所に移動させ、②平らな場所に寝かせてあげましょう。けいれんを起こした時に吐いてしまうお子さんもいるので、嘔吐物が気道に入らないように、③横向きに寝かせてあげてください。この時に衣服の首元のボタンなどを外す、ベルトを緩めるなど、④呼吸が楽にできるようにしてあげるとよいでしょう。また、熱性けいれんの中にはインフルエンザ脳症や髄膜炎など、重篤な病気でも起こることもあるので、けいれんが⑤何分ぐらい続いているか、⑥意識はあるか、⑦けいれんは身体の左右対称に起こっているかなどけいれんの様子を観察しておくことと受診した時に役立ちます。ほとんどの場合は2~3分でけいれんがおさまりますが、⑧けいれんが5分以上続く、けいれんがおさまっても意識の戻りや顔色が悪い場合は、直ちに救急車を呼んでください。

典型的な熱性けいれん(38℃以上の発熱時、熱が出始めてから24時間以内に起こるけいれん、左右対称性、数分間で自然に治まる)の場合は、基本的に後遺症が残らず、特別な治療も必要ありません。初めてけいれんを起こしたときには、念のため小児科を受診してください。熱性けいれんは良性疾患であり、高熱が出なければけいれんを起こしませんので、日頃から熱を出さないための工夫(手洗いやうがい、規則正しい生活、感染予防)につとめ、もし熱性けいれんが起こってしまった時はなるべく落ち着いて対応したいですね。

けいれんを起こした時の対応

- ① 安全な場所に移動させる
- ② 平らな場所に寝かせる
- ③ 横向きに寝かせる
- ④ 衣服を緩め、呼吸が楽になるようにする
- ⑤ けいれんが何分続いているかを測る
- ⑥ 意識がはっきりしているかを確認する
- ⑦ けいれんの様子(左右の動きの違い)を確認する
- ⑧ けいれんが5分以上続く、けいれんがおさまっても意識の戻りや顔色が悪い場合は救急車を呼ぶ